

令和8年度 学園祭

テーマ Make the best memory for your life. ~新たな発想をあなたの手で~

9/1 体育祭(出雲ドーム) 9/3 文化祭(文化講演・弁論大会) 9/4 文化祭(模擬店・クラス企画・ステージ発表)

学園祭 総合部	
第1位	3年3組
2位	2年3組
体育祭	
第1位	3組(紫)
2位	中学生(橙)
弁論大会	
最優秀賞	前田 奏音 (35)
優秀賞	杉本 風 (32)
ポスターコンクール	
最優秀賞	西山 茉莉 (36)
優秀賞	原田 澤 (31)
クラス企画	
中学生	第1位 3年3組
高校3年生	第1位 3年3組
高校2年生	第1位 2年4組
高校1年生	第1位 1年5組



★文化講演
講師 こがけん様

★弁論大会

令和8年度の学園祭が出雲ドーム、出雲だんだんとまとまり、本校において盛大に開催された。9月1日に体育祭を実施し、その後文化祭という日程であった。

体育祭はクラス対抗から色別対抗に変更され、応援合戦も実施された。それぞれの色が限られた時間での準備であったが、学年の枠を越えて上級生が下級生をリードし、下級生も先輩達に追いつき、一つの応援を作り上げ熱戦を繰り広げた。

3日の文化祭初日は文化講演と弁論大会を実施した。文化講演には吉本興業から「こがけん」様をお招きし、「今を生きたい」をテーマにご講演いただいた。最後には質問コーナーの時間もあっていただき生徒達にとって貴重な時間となった。

4日の学園祭最終日はクラス・生徒会企画として模擬店、クラス展示、有志ステージなどを行い大いに盛り上がった。グランドフィナーレでは生徒会と教職員のコラボステージも実施され、3日間の学園祭に華を添えた。

雲北陵月報

No. 493

令和8年9月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

中学卓球部

第57回全国中学校卓球大会

時 8月21~24日
於 きびアアリーナ

(男子団体) 3位	本校 5-10	高積中(和歌山)
予選リーグ	本校 5-10	春日部東中(埼玉)
決勝トーナメント1回戦	本校 3-10	八戸卓球アカデミー(青森)
準決勝	本校 3-11	中間東中(福岡)
準決勝	本校 2-11	城南中(石川)
3回戦敗退	今福瀧司(42観)	
2回戦敗退	清水寛生(42観)	
大会総評	垣原政仁(41光)	



準々決勝で決勝点を挙げた今福



団体戦3位入賞メンバー

優勝した城南中をあと一歩まで追いつめたが惜敗した。しかしながら、12年生主体のチームで3位入賞という成果を収めることができたことは自信に繋がる。今回の経験を今後の練習に生かし、明確になった個々の課題を克服していきたい。遠方にもかかわらず会場まで足を運び選手達に温かい声援を送ってくださった保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。今回の3位入賞を一つの通過点とし、今後は全国優勝を目指して更に精進していきたい。(顧問 古瀬泰之)

吹奏楽部

第67回全日本吹奏楽コンクール中国大会

時 8月24日
於 広島HBBGホール

課題曲...Ⅲ あつまれ おもちゃのマルチャ!
自由曲...フエスティバル・バリエーション
自由曲...C.T. スミス

○大会総評
4年連続の全国大会出場を目標に掲げ、3年生を中心に部員達は努力を重ねて本番に臨んだ。当日は、練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏で観客を魅了した。

合唱部

第93回NHK全国学校音楽コンクール 中国ブロックコンクール

時 9月6日

於 はつかいち文化ホールウッドワンきくらび
コンクールの歌唱規定人数は40名以内であるが、本校合唱部は高校の部員17名で本番に臨んだ。数的な劣勢は否めないながら本番ステージでは、練習でやってきたことを遺憾なく発揮し、ホールいっぱい北陵サウンドを繰り広げ歌い切った。結果銅賞で全国コンクールへの切符を手にすることができず残念であった。今後1人でも多くの部員を確保できるように尽力したい。また、次のコンクールに向けて、更なる高みを目指して表現の精度を上げていきたい。

第65回中国合唱コンクール

時 9月19日

於 鳥取市とりぎん文化会館梨花ホール
中学生、高校生部員18名が参加し、過日行われたNHKコンクールとは違う課題曲、自由曲の2曲を演奏した。特に自由曲では、プロのヴァイオリニストとの協演もあり、入念な合わせを行い本番を迎えた。本番ステージでは日頃の練習の成果をしっかりと発揮することができ、ホールいっぱい北陵サウンドを響かせることができた。そして、結果金賞をいただくとともに、全国大会への出場権を得ることができた。更に、鳥取県教育委員会賞という特別賞もいただくことができた。全国大会に向けて更にブラッシュアップした演奏ができるように日々の練習を重ねていきたい。(顧問 布野浩志)



吹奏楽部

第39回全日本マーチングコンテスト島根県大会

時 9月23日
於 カミアリーナ

本年度は79名という大人数でマーチングに取り組んだ。8月下旬から本格的に練習を開始し約3週間程度という短い練習時間だったが、本番では素晴らしい演奏演技を見せ、会場を魅了した。結果、金賞を受賞し、中国大会への出場権を獲得した。

中国大会では、島根県代表としての誇りを持って演奏演技し、全国大会に出場できるように精進していきたい。

(顧問 竹内康貴)

なぎなた部

幸村杯第11回全国高等学校男子なぎなた選手権大会

時 8月30日
於 九度山文化スポーツセンター

〈男子個人の部〉
岡田一之介(34歳) 4回戦敗退(ベスト16)

第56回島根県武道振興大会

時 9月6日
於 島根県職員会館

〈演技競技の部〉
・中学生の部

江角 桃(中2) 岩崎由佳(中2) 3位決定戦敗退

・高校生の部

佐藤晴香(13歳) 堀内琳加(14歳) 優勝

〈個人試合の部〉
・中学生の部

江角 桃、岩崎由佳 2回戦敗退

・高校生の部

堀内琳加 優勝

佐藤晴香 3位

佐藤花春(15歳) 1回戦敗退

(顧問 井上美代)

女子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月12・13日
於 浜山公園テニスコート

優勝 今田 心(23歳) 末田美雨(13歳) ペア

2位 牛尾真緒(21歳) 村尾竹音(13歳) ペア

B 16 水永成実(23歳) 三原夏帆(13歳) ペア

井上陽音(13歳) 岡 凛華(14歳) ペア

大会総評

新人戦に向けて更に強化していきたい。たくさん応援有難うございました。

(顧問 金森 快)

男子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月12・13日
於 浜山公園テニスコート

3位 杉本 風(22歳) 木村一心(21歳) ペア

B 16 佐藤宏祐(24歳) 服部元翔(15歳) ペア

坂本駿介(22歳) 栗原 健(23歳) ペア

大会総評

優勝を目指し挑んだ大会であったが、一歩届かず悔しい結果となった。また全体的に課題が多く出た大会であったので、新人戦までの期間でしっかりと修正し、新人戦では団体3連覇、個人優勝を達成できるように精進したい。当日はたくさんの方に応援に来ていただき有難うございました。

(顧問 佐々木雄志)

卓球部

全日本卓球選手権大会(ジュニアの部)島根県予選大会

時 9月11・13日
於 島根県立体育館

〈男子シングルス〉

2位 波多間怜偉(23歳) ※本戦出場

3位 清水寛生 ※本戦出場

4位 垣原政仁

7位 村守結仁(中2)

〈男子ダブルス〉

2位 波多間怜偉・松崎優樹(23歳) 組

大会総評

優勝こそ逃したものの、中学生の健闘が光った。本戦での入賞を目指して、更なるレベルアップを図っていききたい。

(顧問 古瀬泰之)

野球部

島根県秋季高等学校野球大会

時 9月11・13日
於 江津市民球場

1回戦 本校 6-14 出雲農林

2回戦 本校 0-19 立正大浜南

(7回コールド)

大会総評

2年生を中心にチーム一丸となって戦ったが、力の差を見せつけられ敗退となった。新チーム結成以降の最初の公式戦で1勝を挙げたことで、選手はより勝利を貪欲に追いつめるようになった。課題は明確な形で日々精進して来年度の飛躍を誓いたい。当日は遠方でありながら球場に足を運んでいただき有難うございました。

(顧問 畑 宗一郎)

テニス部

島根県高等学校テニス新人大会(個人の部)

時 9月12・13日
於 石見海浜公園テニスコート

〈男子シングルス〉

一回戦敗退 高橋竜也(22歳) 加地朝也(21歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

一回戦敗退 高橋竜也・小村奏太(24歳)

陸上競技部

第72回島根県高校新人陸上競技大会

時 9月19・20日
於 益田

田中純平(11歳) 棒高跳 5位 ※中国大会出場

高野咲人(13歳) 砲丸投 6位

大会総評

本校からは11名の選手が参加し、夏の練習の成果が試される大会となった。結果として2名が入賞、うち1名が中国大会の出場権を得ることができた。自己記録更新した選手や、初めて挑戦する種目の選手もそれぞれの実力を発揮してくれた。自己記録更新できなかった選手もいたが、課題をみつめ、次に向けて頑張ってくれた。全員が来季の県高校総体で更なる活躍ができるように、冬季練習を頑張ってきた。応援をしていただいた保護者、生徒の皆さん本当に有難うございました。(顧問 中澤 悟)

ダンス同好会

出雲神話まつり

時 8月22日
於 大津神立河川敷公園

神話まつりのステージイベントに出演し、暑い中多くの方に本校のダンスを観ていただいた。学園祭に向けての練習と並行しながらの制作だったが、ユニット曲を通して学年を越えた絆を育んだ。応援に駆けつけていただいた保護者の皆様有難うございました。(顧問 水谷円香)

写真部

令和8年度撮影技術大会

時 9月11・12日
於 三瓶国立青少年の家

撮影技術大会は東京工芸大学から講師を招き、撮影の基礎を学び、ワークショップ

で技術を向上させることを目的としている。今年度から講師陣の5人中3人が新しい先生になり、新体制での大会となった。どの講師の先生も非常に熱心に講義をしてくださり、とても実りのある大会となった。本校写真部員達は意欲的に作品制作に取り組み、楽しんでワークショップに参加していた。この経験を糧に撮影技術の向上に励み、写真を通して視野を広げ、自らの世界観を表現することを目指していききたい。(顧問 村上 学)

美術部

文化祭展示

時 9月4日
於 本校美術棟

毎年の8月末に保護者向けに美術課題発表展を開催していたが、今年は大雨警報により中止とさせていただいた。

続く9月4日の学園祭では一学期に制作した授業作品や部活動作品、夏休みに制作した自由制作の新作を中心に展示会を行った。恒例の似顔絵コーナーでは来場された多くの方の似顔絵を描かせていただき盛会に終了した。(顧問 石倉 正)

第65回島根県高等学校音楽コンクール

時 9月9日
於 プラホール(松江市)

本校からはピアノ部門へ2名、弦楽器部門へ1名、声楽部門へ7名、金管楽器部門へ13名、木管楽器部門へ15名の計38名が参加した。参加生徒は北陵高校生らしい素晴らしい演奏を披露し、結果は以下の通りとなった。

○金管部門

○木管部門

○声楽部門

その他

賞した。本年も本校が多数上位入賞を果たし、更に3部門で1位を獲得するなど活躍が目立っていた。日頃からの指導していただいた音楽コースの先生方、応援していただいた地域の皆様、保護者の皆様のお陰であり感謝致しております。(音楽科 竹内康貴)

一斉書写

時 8月27日

夏休み明けの最初の行事である「一斉書写」を実施した。それぞれが気持ちよく、緊張感のある空間と雰囲気大切に、日頃の授業にも繋げて欲しい。

高校2年生・中学生による除草作業

進路講話「高校生活の過ごし方について」

吹奏楽部
体験入部

秋のオープンキャンパス開催

避
難
訓
練

中学校

全日本卓球選手権力デットの部島根県予選大会

○大会総評

全日本少年軟式野球大会出雲市部予選

「一軍艦に片舷から本村のヘビーで得なことができ、持ち味である走塁での得点練習の成果を発揮した打撃で得点を積み重ね、コールド勝ちをすることができた。同日に行われた2回戦では、追いついては追い越される接戦と違った。最後は併殺崩れの間に走者の本塁生還を許し、サヨナラ負けとなった。優勝するために、今一度、原点回帰し、日々の練習から強さを追い求めて精進していきます。」（顧問 酒井甲太郎）

第7回鳥根県U15バスケットボール選手権大会
出雲・雲南地区1次予選会

21 試 合 目	1 試 合 目
本 校	本 校

ブロッ決勝 本校
結果 2位

○大会総評
決勝戦では、

ることができた
1から鍛え直し

うに準備したい
た。

第7回島根県U15バスケットボール選手権大会

21
回回
戦戦
本校本校

本校
本校
準決勝
順位決定戦

決
結果勝
2 本校
位

○大会総評
決勝ではチ

神的にも脆い部分まで期間は少ない

出雲科学館 理科学習（中学2年）

時 9月9日

「植物の内容をつくりだした。」の光合成に
関する内容を3時間、実習した。
十分に光を当てたオオカナダモの葉をヨ
ウ素液で染色する前後について、双眼生物顕
微鏡で観察し、細胞内の葉緑体の部分でデ
ンブロンがつかれていことを確かめた。
また、赤いインクにつけておいたアスパラ
ガスとキクの茎をミクロトームという器具
を使って薄く切り、光合成に必要な水の通
り道を双眼生物顕微鏡で観察した。
生徒達はプレパラートづくり、ミクロト
ームの安全な操作、双眼生物顕微鏡の正し
い操作と観察、スケッチ等、多岐にわたる
作業を班ごとに協力し、真剣に取り組んだ
実習を通し、単元の理解を深めることがで
きた。

保
育
体
験
学
習

3年生は認定ことも園
で保育体験実習を行った

日頃は幼児と接する機会が少ない生徒達にとつて貴重な経験をさせていたのだ。お世話になった幼稚園、保育園の皆様、本当に有難うございました。



園児達と運動会の予定や
習や外国語の授業など、様
々な活動を行なった。

令和8年度 第22回 少年の主張出雲市大会優良賞受賞

於 出雲市役所

井土 下糸耕子(中塩)
演題 「家族」

今年も出雲市役所を会場に、市内の1校の生徒が熱弁をふるった。本校代表の下谷は、毎年行われる家族・親戚の集まりを通

して、昨今の諸外国の戦争や国内の自然災害により奪われてしまった命や日常生活の

自身の体験からこれからの日々を大切に過

としていきたいと発表した。今回の発表で思いを新

たにしたいことを今後の中
学生生活に生かして欲しい

と思う。
(担当) 別所美喜子

作品と研究

第22回少年の主張出雲市大会

優良賞

『家族』

下条 莉子(33歳)

私の父の出身地は、長崎県にある壱岐島^{いぎのしま}という人口が二万人ほどの小さな離島です。壱岐は自然が豊かで、特に海がきれいです。島民の方々も心暖かく、私にとって特別な場所です。そんな壱岐に私は年に二回程度、夏と冬に帰省しています。今まで何回も壱岐には帰っていますが、島に行く直前は向こうにいる家族に会えることがとても嬉しくて心の底から湧き上がってくるワクワクを抑え込むことができないくらいです。

しかし、そんな私でも唯一、気が遠くなるような行事があります。それは盆と正月に行われる親戚のみんなとの食事会です。食事会は主に祖父と祖母の家、あるいは祖母の実家で数回に分けて行われます。私の祖母は二人ともたくさんの兄弟がいる大家族で、家にはたくんのお客さんが来られて盛大に会を行います。家族がたくさんいるために、家

族関係や名前、顔を覚えたり、料理やお酒を運んだりするなど、数えきれないほどしなければならぬことがあります。もちろん年に数回しか会うことのできない親戚との交流が楽しいと思う反面、この時の私は手伝いをするのが少し面倒くさいなど感じることは少なくありませんでした。しかし、親戚達の高齢化やいとこ達が大学生になったり、社会人になったりといった理由で壱岐へ帰省ができず、壱岐に皆が集まるのが難しくなっています。だから、親戚達との食事会はどんどん減っていきました。そして、ここ数年では祖父母の家で祖父母といとこの家族だけとの集まりとなり、今までに感じていた華やかさや賑やかさはなくなりました。出雲にいる私達家族は、夏と冬の帰省をする祖母の実家に行き、ご先祖様のお仏壇に手を合わせるのが毎度の習慣です。祖母の実家に着くと、以前は親戚達の笑い声が絶えなかったはずの家が、今はもう大叔父が一人だけで住んでおり、ひどく静かで淋しさを感じるようになりました。これまでの私は、家族というものは当たり前のように自分のそばにいて、喧嘩をしても、嫌気がさしても、ずっとずっと一緒にいる

ものだと思っていました。そうであれば、親戚のみんなと年に数回しか会うことのできない食事会で、顔を合わせて豪華なご飯を食べ、みんなの笑顔が溢れかえっているその会に嫌気がさすはずがありません。そして、今の私はもう戻ってこないあの時間に戻りたいと心の底から思うようになりました。壱岐でのひと時がそれほど大切な時間だったことをようやく最近気づき始めたのです。

私はこの体験から皆さんに伝えたいことは両手ではすくいきれないほどたくさんあります。その中でも一番に伝えたいのは、全てのことに「永遠はない」ということです。「どうぞまた来年もあるのだろう。」と自分が感じていたように、これからもずっと続くと思

っていることは本当に続くとは限らないということです。「それは明日かもしれないし、十年後になるかもしれない。」それは誰にもわからないのです。「永遠はない」ということはこれから未来でもたくさん



今月の1枚

令和9年度愛鳥週間用ポスター鳥根県コンクール入選

平井

瑞葉
(2・5
三刀屋)

起こると思っています。例えば、今の日本に戦争はなく平和に過ごすことができていますが、他国で報じられているニュースのようにいつこの平和が崩れるのかわかりません。国内では自然災害も頻繁に起こるようになりしました。自分の愛している人といつ会えなくなるのかも分かりません。

「誰にも予想することができない毎日を宝物のように大切に過ごす。」これが私のみなさんに伝えたいことです。そして私自身もこの言葉を常に心に置いてどんなに少しの時間でも大切に大切にすごしていこうと思っています。